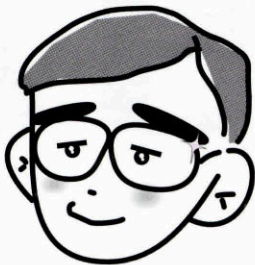


長門市長 松林正俊

オトコとオンナ 女性と男性 Part.2



性や能力をいきいきと発揮できる社会、男女共同参画社会の形成が今求められています。

かつてわが国は、家長制のもと社会的にも家庭内でもオトコが圧倒的に強かった時代がありました。しかし今は、家庭内では圧倒的にオンナが優位に立っているケースがほとんどではないでしょうか。

男女共同参画社会にについては、以前もこの欄で触れさせて頂いたことがあります。ウーマンリブ（女性解放）、男女同権、女性政策といった言葉は今や過去のものととなり、男性女性を問わず一人ひとりがあらゆる分野で個性や能力をいきいきと発揮できる社会、男女共同参画社会の形成が今求められています。

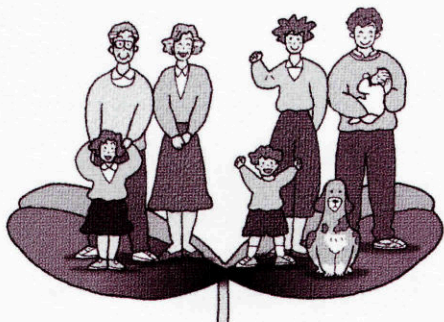
社会的にはオトコが強く、家庭的にはオンナが強いという分類は適当ではないにしても、そう云えなくもないなと思われる方も多いはずです。

男女共同参画社会とはどんな社会をイメージしたらいいのか、戸惑う市民の皆さんも多いと思います。家庭を社会と置き換えてみると捉えやすいかもしれません。

本市は4人に一人が65歳以上という高齢化社会ですが、これから団塊の世代が退職を迎えるころになると仕事一途だった多くの男性が家庭や地域に戻ってくるようになります。オトコにとって家庭や地域でのスペースが必要になってくるのです。そしてそのためには、

特に家庭では妻（オンナ）とのパートナーシップの有無が鍵となります。とかく日本の男性は女性に対する意思表示が苦手だと言われますが、よりよきパートナーシップを築くには会話と相手の立場への理解が不可欠です。家庭でのオトコの居場所の確保は、オンナの立場の理解とオトコの「家庭参画」から始まると言えるかもしれません。

昨年、「ながと男女共同参画計画」が策定されましたが、これは単に女性の社会参加を促す「オンナのための政策」ではなく、「オトコのための政策」でもあるのです。とかく難しく他人事のようにとられがちの政策ですが、身近なところ



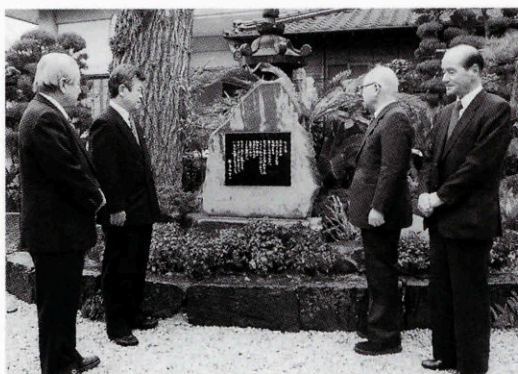
ろで男女互いの認識を深め、意識改革をすることが男女共同参画社会構築の第一歩であると、今回はオトコの視点から触れてみました。

みずぶ自筆の詩碑「まじろ」除幕

長門市郷土文化研究会が遍照寺に建立

金子みずぶの墓所、仙崎の遍照寺に、彼女の代表作「まじろ」の全文を自筆で刻んだ詩碑が完成しました。詩碑は長門市郷土文化研究会がみずぶ生誕百年を記念して建てたもので、遺稿集「三冊の手帳」の中にある彼女の筆跡を復元しています。

2月8日に行われた除幕式には、郷土文化研究会や金子みずぶ顕彰会、遍照寺の関係者など約40人が出席し、新しい詩碑の完成を祝いました。



シニアグループの交流拡大を

シニアグループ集会在長門市

長門地域1市3町でボランティアや生涯学習に取り組んでいる40歳以上の中高年のグループを対象にした「シニアグループ集会在長門」が2月5日、長門市物産観光センターで開催されました。

この集会は、県内で活動しているシニアグループの連携交流を深め、ネットワークを立ち上げることを目的に、山口県と県社会福祉協議会が主催したもので、長門市と大津郡3町から30



団体、約50人が参加しました。